

「テサロニケでの宣教」

2016年07月14日

使徒言行録 17章 1節～9節。パウロとシラスは、アンフィポリスとアポロニアを経てテサロニケに着いた。ここにはユダヤ人の会堂があった。パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い、「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」と、また、「このメシアはわたしが伝えているイエスである」と説明し、論証した。それで、彼らのうちのある者は信じて、パウロとシラスに従った。神をあがめる多くのギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちも同じように二人に従った。しかし、ユダヤ人たちはそれをねたみ、広場にたむろしているならず者を何人か抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして捜した。しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人の兄弟を町の当局者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。ヤソンは彼らをかくまっていますのです。彼らは皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています。」これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。当局者たちは、ヤソンやほかの者たちから保証金を取ったうえで彼らを釈放した。

パウロとシラスはエーゲ海沿岸のアンフィポリスとアポロニアを経て、テサロニケに着いた。テサロニケはフィリピから 150 km ほどの道のりで、マケドニア州第二区の首都で、ローマの州総督府が置かれていた。町には、相当数のユダヤ人がいて、礼拝を守る会堂も建てられていた。

パウロは例によって、会堂に行き、集まっているユダヤ教徒と三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合った。旧約聖書には「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」と預言されているが、「このメシアはわたしが伝えているイエスである」と説明し、論証した。主イエスの十字架と復活の福音を宣教したのである。すると、あるユダヤ人たちは、パウロとシラスが語る福音を信じ、従った。また、ユダヤ教に改宗したギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちも二人に従った。一方、二人が語ることはユダヤ教の教えとは違うと激しく反発する人々がいた。テサロニケの会堂では、二人に従う者たちと反発する者たちを二分するような状況になった。反発する者たちは、異なる信仰に従わせたことで二人を妬み、許せないと考えた。そこで、広場にたむろしているならず者たちを抱き込んだ。パウロとシラスが滞在しているヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとした。しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人の兄弟を町の当局者たちのところへ引き立てて行き、大声で「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。ヤソンは彼らをかくまっていますのです。彼らは皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています」と罪状を訴えた。町で暴動を起こし、ローマ皇帝以外に別のイエスという王がいると、皇帝の勅令に背く許されない宣伝をしていると町を混乱させた。これを聞いた群衆と町の当局者たちは平穏な町が騒乱状態になると恐れ、不安に駆られた。当局者たちは、ヤソンやほかの者たちから保証金を取り、以後、町を混乱させるなと命じ、彼らを釈放した

パウロとシラスの宣教は信じ従う者と反発、抵抗する者に二分した。主イエスの福音は聞く者に強いインパクトを与えて決断を迫るものであった。